

広島県のシダ植物*

吉野由紀夫¹⁾

Some notes of the Pteridophyta in Hiroshima Prefecture, Japan*

Yukio Yoshino¹⁾

Summary

1. A historical review of research on pteridophytes in Hiroshima Prefecture is described.
2. Some pteridophytes species, whose type locality is in Hiroshima Pref., are described.
3. Current status of the pteridophytes in Hiroshima Pref., especially designated and an endangered species, is described.
4. Achievements of Mr. Masafumi Matsumura are listed.

はじめに

松村雅文氏は上蒲刈島（現：呉市蒲刈町）の出身で、中国新聞社に長らく勤務されていた。勤務中からシダ植物に興味を持たれ、三原市の（故）竹田孝雄氏らとともに県内のシダ植物について調査され、多くの成果を公表された。今回、松村雅文氏がこれまで調査してこられた広島県のシダ植物に関する知見を広島市植物公園紀要に公表することに合わせ、広島県におけるシダ植物に関するいくつかの事項について寄稿することになった。そこで、広島県におけるシダ植物の研究略史と、広島県を基準産地とする種などの項目について記述し、末尾に松村氏の業績目録を挙げる。

広島県のシダ植物の研究史

明治以前の広島県のシダ植物については、天明元年（1781）に小田好道が広島藩に差し出した「山県草木志」（広島市立中央図書館（編）1992）にヒカゲノカズラなど16種類が記述されている。

明治以降は牧野（1911）が佐伯区湯来町の恵下谷からクラガリシダを報告したのが最初である。戦前は広島高等師範学校や広島文理科大学の教官であった乾環（1873～1946）や高木哲雄（1905～1945）らが中心になって調査が行われた。特に乾は1918年に出版された「巖島植物目録」（乾 1918）で巖島（宮島）に生育するシダ植物7科51種を報告している。また、田川（1936）が早い時期に広島からオオカグマを報告していることも注目される。

広島県のシダ植物について高木は、1927年に「広島県下植物目録、羊歯の部」を作成している（高木1927）。広島県のシダ植物に関するまとまった報告としては、これが最初と思われる。また、高木（1933）は、広島県の植物分布を考察し、シダ植物についても記述している。

戦後は（故）越智謐武や（故）土井美夫、（故）河毛周夫らが県内各地を調査した。戦後の早い時期に越智（1948）や堀川・佐々木（1959）がシダ植物目録や地域の植物相を報告しているが標本は残されていないようである。また、土井（1967, 1983）や河毛（1974）は広島県のシダ植物相や維管束植物目録を

* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.102

1) 東和環境科学株式会社

Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden, No.33: 1-6, 2016.